

平成29年度 第1回館山市子ども・子育て会議 要録

1	審議会名	館山市子ども・子育て会議
2	日時	平成29年7月12日(水) 午前10時00分～午後12時20分
3	会場	市役所本館 2階会議室
4	出席者	石渡委員長、押元副委員長、齋藤委員、新藤委員、内田委員、 菊井委員、中村委員、清宮委員、半澤委員、田村委員、庄司委員、 室委員、安藤委員、山崎委員 (欠席委員) 越智委員
5	市側出席者	金丸市長、四ノ宮教育部長 (行革財政課) 御子神課長、戸波主任主事 (こども課) 富田課長、高田副課長、大山係長、原田係長 山木主事、黒川主事
6	会議次第	
1	開会	
2	市長挨拶	
3	委嘱状交付	
4	委員自己紹介	
5	委員長・副委員長選任	
6	議事	
	(1)	公共施設等総合管理計画について
	(2)	「子ども・子育て支援事業計画」に関する実施状況について ・平成28年度実施状況について ・こども・子育て支援サービスの見込み量に対する確保の実績
	(3)	質疑・意見交換
	(4)	その他
7	閉会	

(1) 公共施設等総合管理計画について

戸波主任主事から、公共施設等総合管理計画について説明。

(戸波主任主事) 本計画については、老朽化する公共施設について、人口が減少する中で、

今の施設を見直すためのもの。市の状況としては昭和40～50年代に現在ある公共施設の約8割が建設されている。一気に更新の時期を迎えるが、人口は減少傾向にあり、高齢者人口は20年前の1.5倍。今まで以上に長期的な視点を持つ必要がある。

(資料① 6P) 市が保有する建物は学校や子育て支援の施設が多いが、30年以上経過している建物が多く、一気に建替えや修繕の必要がある。

(資料① 11P) 経過年数が30年以上経過している施設が多く、10年以内に建設したものは少ない。

(資料① 13P) また、耐用年数については、純真保育園、中央保育園が既に超過している。超過していても使用できないわけではないが、経費がかかる。

(資料① 17P) 人口推移は昭和25年の6万人が最大で、現在は5万人を切っている。10年後には20%減少すると推測している。また、表2-8では、小中学生の児童数の推計であるが、複式学級が発生する見通し。

(資料① 18P) 財政状況は厳しく、平成21年市の貯金である財政調整基金がすべてなくなる事態となり、その後改革等を行い増加させたところであったが、東日本大震災以降耐震化事業の為に再び減少、市税の収入減ということもあり、平成32年には再び財政調整基金はなくなる見込みである。

(資料① 22P) このまますべての施設を建替えした場合には283億円、大規模改修を行った場合には160億円かかる。

(資料① 26P) そこで計画方針として、今ある施設の使い方、ひとつの施設に色々な使い方をさせようということである。市の持続をはかるためには、延床面積20%以上の削減を目標として、「統廃合」「機能複合化」「民間の力」を考えている。

(資料① 31P) 少子化の影響はあるが、保育園入園児童は増加している。そのため幼稚園が減少傾向。私立であれば保育園は国からの支援を受けられる。公立→私立を推進する。また人口を考慮し統廃合、こども園化を推進する。平成32年までに個別計画を策定するために、今後市の現状を踏まえつつ市民の意見を取り入れていきたい。

意見交換の詳細

(齋藤委員) 公立を民間にということだが、幼稚園が私立にということか？

(御子神行革財政課長) 都市部において幼稚園が公立のところはほとんどない。民間にということであれば保護者に不安もあろうかと思うが、業者が保護者へ説明会を丁寧に開くため、よそでは公立より運営がよくなったとの声もある。

また、保育園については、平成16年公立保育園は交付税制度へ移行したが、私立の場合には運営補助金があるため、財政上もよい。

保育士の待遇改善についても、千葉県では知事が私立保育園の保育士の単価をあげるための政策をあげている。

(齋藤委員) 幼稚園と保育園は一緒にしていくという考えでよいか？保護者からすると幼稚園と保育園は違う。

(戸波主任主事) 計画を策定する時に現場を見に行ったが、保護者のニーズが様々な形になっている。財政や老朽化を考えると、ニーズに応えるためにはこども園化がベストかと。個別計画では市民の意見を拾っていく。市にとってよりよい形を考えていくための提案ということ。

(齋藤委員) 個人的にはこども園化は大賛成であるが、地域の歴史などもあるため、地元へ丁寧な説明をすることが大変と思う。

(富田こども課長) 資料④にて公立幼稚園、保育園等の園児数の推移を示している。幼稚園のこどもの数は減少傾向であり、今年度は5人のみの園も。次に少ない園は14人。他園と交流を行ってはいるが、集団活動はしにくい状況。

また、平成16年公立保育園は、1/2国、1/4県負担がなくなり交付税となったため、保育園へはいくら補助が設けられているかわからない。

また、調理業務だけでも先んじてアウトソーシングを検討していく。

(新藤委員) 放課後支援として障害児、発達障害児を高齢者の施設をとすることはどうか。医療的ケアを行ってくれる児童の施設は南房総地域ではなかなかない。看護師が在籍している高齢者の施設を。環境のよさを理由に東京から移住してきた話もある。民間になると思うが、介護施設を多機能的に利用してみるのもよいと思う。

(石渡委員長) 個別計画の策定の際には細かいことをすすめていくことになる。今日のところは進め方を確認ということで、改めて資料を見ておくとし、次回につなげる。

(御子神行革財政課長) インパクトのある資料となっているが、今後市民の意見を聞きながら施設の総量を減らすということである。

(2) 「子ども・子育て支援事業計画」に関する実施状況について

高田こども課副課長から実施状況について説明

(高田こども課副課長) 平成27年3月に策定した本計画について平成28年度の実施状況についてとりまとめた。また、今年度は中間年度にあたるため、計画の見直しを行う。よりよいものとなるよう改善のためにご意見をお願いします。

(資料②)

事業番号4「幼稚園における預かり保育の実施」

北条幼稚園で18時までの預かりについて体制を整備した。今年度より預かりの実施を開始している。中央保育園の卒園児の選択肢拡大となった。

事業番号14「放課後児童健全育成事業(学童クラブ)」

公設化以来待機の発生していた那古学童クラブにて、小学校敷地内に専用施設を整備、定員を拡大した。また、北条学童クラブに教室を1室増加とし、平成27年時には合計230人だった定員を280人と50人拡大している。

事業番号16「利用者支援事業の実施」

子育てアドバイザーを2名体制とし、広場へ出向くなど、気軽に相談できる場を設け

ている。

事業番号25「子ども医療費の助成」

通院医療費を中学3年生までとした。

事業番号40「特別支援教育の推進」では、小学校における肢体不自由児の受入をした。

事業番号89「図書の貸出・相談の実施・おはなし会の開催」では、図書館キッズタイムを金曜日午前に設け、こどもの図書館利用を推進。育児相談できる環境を整え、利用者から好評を博している。

事業番号90「放課後子ども教室の開催」では、平成28年すべての小学校で実施体制を整えた。また、学童クラブとの連携を密に行っている。

事業番号106「学校の安全確保」では、北条幼稚園建替え、神戸小学校を房南中学校敷地内へ移転し、こどもの安全対策とした。

事業番号110「バリアフリー化の推進」では、三中前の歩道の段差を整備した。

(資料③)

計画策定時の見込み量と成果としての実績値が10%以上かい離している場合は原則計画の見直しとなっている。実績値が10%以上かい離している場合には赤字で示している。また、昨年度報告した平成27年度の実績値で修正がある箇所については黄色マーカーで示している。

第1節 1 幼稚園・認定こども園短時間児

1号認定、2号認定の区分を分けるのが不可。掲載した実績値は合計。平成29年度は赤字→北条幼稚園の預かりが始まっているため、増える見込み。

修正点→私立幼稚園分が含まれていたため。

第1節 2 保育園・認定こども園長時間児

赤字→3号認定(0歳児)が出生数は減少しているものの、保育を希望する保護者が増加しているため。

第2節 2 地域子育て支援拠点事業

赤字→積算根拠当時の数値が良かったことによるため。

修正点→出張広場の数を失念していたため。

第2節 3 妊婦健康診査

通常であれば14回支援の予定だが、母子手帳取得が遅い場合や、早産の場合には14回に満たないことがあったため。

第2節 4 乳児家庭全戸訪問事業

修正点を別紙掲載

第2節 6 子育て短期支援事業

赤字→現在実施取組はなし

第2節 7 ファミリー・サポート・センター事業

赤字→平成 27 年度補助金を活用した利用割引を行い、利用状況が順調であるため。
修正点→年度取り違いによるため。

第 2 節 8 一時預かり事業

[幼稚園における在園児を対象とした一時預かり]

赤字→幼稚園においては 1、2 号認定の別がとらえられないため掲載できず。実績としては 58 人の利用があり、延べ 617 日利用。

[幼稚園における在園児を対象とした一時預かり以外の一時預かり]

赤字→見込量の差は、アンケート時の希望と実際の利用との差。実施箇所数については 28 年度 2 箇所が一時預かり事業を終了したため。

第 2 節 9 延長保育事業

赤字→ニーズ調査からの見込と実際の利用の差と推測。

第 2 節 10 病児保育事業

赤字→計画よりも多いのは、一日の受入人数を 4 人から 6 人へ増やしたため。また、事業の浸透とも見受けられる。

第 2 節 11 放課後児童健全育成事業（放課後子ども総合プラン）

修正点→民営を含めていなかったため。

意見交換の詳細

(山崎委員) まず子育て環境の整備をお願いしたい。子どもが病気になった場合に、職場で温かく受け入れてもらえるか、もしくはまたか、と冷ややかな態度をとられるか。行政側からの柔軟な対応の呼びかけをお願いする。職場が理解のあるところとそうでないところがある。そういった環境を整えていけると利用量も変わるのではないか。また、幼稚園・認定こども園短時間児の見込量と実績数のかい離が大きいのが、平成 29 年度の見込み量はそのままなのか？なんでこのようになったのか？

(富田こども課長) 見込みについては国よりアンケートの実施からの見込の数式が示されていたことによる。ただ、保育園は見込みが高くでてしまったので、実績からの伸び率や子どもの数の見込を勘案して積算した。

(山崎委員) こどもが船形こども園で、こども園になった時に在籍していた。幼稚園側の親と、保育園側の親とで、また、先生方も幼稚園の先生と保育園の先生とで、方針や感覚が違った。合体時はそういうことが起きる。現在はそういったことはない。こどもに目を向けると少ない人数の塊で保育園と幼稚園と別れていたのが、現在大人数の活動ができ、とてもよい影響がある。こども園化はすごくよいと思う。

小学校との交流についてだが、都会では小学校と交流は無い。館山市では交流があるのがよいと思う。しかし保育園部分については学区でないところへ通わせているが、小学校にあがると別々になる。今年のこども園の保護者役員は、他学区の人で固まってしまったので、小学校の保護者役員とのコミュニケーションが難しいと思われる。地域や園の選定について考えてもらいたい。

(富田こども課長) 館山市のこども園は行革と一体的に進めてきており、房南こども園は房南保育園の園舎老朽化により、神戸幼稚園の中に作った。九重と船形こども園は幼稚園と保育園が隣り合わせだったものをこども園化したので、この3園は地域的なつながりが出来ている。

北条幼稚園で預かりが始まり、中央保育園卒園児の受け皿ができたので、今まで館野、純真、船形こども園へ流れていた卒園児が、今年度は転園3人であった。北条学区のこどもが北条幼稚園に行くことができる。

(4) その他

大山係長から北条幼稚園預かり保育実施状況について説明。資料⑤

(大山係長) 館山市は平成29年3月に館山市立幼稚園預かり保育条例を制定した。今までも14時～15時は無料の預かりを実施していたが、北条幼稚園では4月より朝は7時30分～9時00分、午後は14時00分～18時00分までの有料の預かり時間を設定。現在の利用者と申込み数は資料のとおり。中央保育園卒園児はこの3月27人おり、うち14人が北条幼稚園へ入園。預かり保育を利用しているのが10人。中央保育園が4歳では転園になっていたことから、有料の預かり保育を始めることにより、14人が北条幼稚園へ入園した。中央の受け皿としての役割、また、待機児童の減少につながった。

高田こども課副課長から公設学童クラブの運営状況について説明。資料⑥

(高田こども課副課長) 公設学童クラブは平成27年度よりスタートし、今年度で3年目。北条学童クラブは27年度定員60人から、28年度には90人、今年度については120人と年々増加しているが、夏休みの利用希望の中で入れない人も。公設化して保育の質向上や、民間のノウハウがあったことによるかと。今後については空き教室等の問題もあり定員拡大についてはわからない。

大山係長から千葉県保育士処遇改善事業について説明。

(大山係長) 千葉県では6月補正で保育士処遇改善事業を計上、館山市でも10月1日施行で準備を進めている。私立保育園4園と連携し進めていく予定である。

(3) 質疑・意見交換

(室委員) 項目が多く見るのも、チェックも大変。もう少し評価しやすいように。

また、就学前と就学後で担当課がこども課と教育総務課と違うため、漏れが生ずるのではないかと危惧。発達障害児の就学指導等課の連携の取り方が難しい。切れ目なくできるようにしてほしい。情報について複数またがることについて主担当はどこか。

(富田こども課長) 切れ目ない支援については計画時にはバラバラになっている。障害児支援については子ども・子育て支援事業計画の中では事業番号31～40が該当。冊

子でまとまったものには担当課も記載されている。

(室委員) 必要であれば計画に項目を追加し盛り込んでほしい。

(齋藤委員) 中央と北条幼稚園はいずれこども園化するのだろうか、と新園舎を見て思っている。こどもは何も思っていないだろうが、親のインパクトはすごい。今年度は奉仕作業や役員をどうするか、など戦々恐々としていた。娘は北条幼稚園年長だが、預かり保育について保護者説明会は特になかった。何もわからない中情報が行きかってもやっとした感じがあった。こども園として移行する場合には説明の場をしっかりと設け、情報を共有してほしい。

(富田こども課長) 市の中で意志決定、予算等が遅かったため、4歳児へは説明会を行ったが5歳児の保護者へは情報が不足してしまい申し訳ない。こども園化するには十分に説明を行う。

(中村委員) 昔はタテの線とヨコの線がつながっていたが、今は壁がある。壁をとって線が広がってほしい。

(石渡委員長) 小学校とのつながりや環境の改革、こども園化等の意見が出た。連携の問題等の発言もあった。計画に項目として入れられれば。29年度は取り扱いを進めていくということ。